

# こどもコミュニケーション研究所公開講座(2018・2019) 総括

The summarization of “Childhood and Communication Open Lecture”

こどもコミュニケーション研究所長

浅川 陽子

## はじめに

例年こどもコミュニケーション研究所が主催する「こどもコミュニケーションフォーラム」より規模は小さいが、少人数での濃いコミュニケーションができることを願って、2016年度より研究所では「公開講座」事業を開始した。

2016・2017年度公開講座の総括は、江戸川大学こどもコミュニケーション研究紀要第1号に掲載した。

本稿では2018・2019年度のこの事業について、成果と課題を総括する。

### 【事業の目的】

近年、流山市では住環境の整備とともに子育て世代の住民が増え、市民の子育て支援・保育・教育への社会的関心が高まっている。

子どもの成長や発達についての知識・理解や、子育て支援にかかわるコミュニケーションの質的向上などについての専門的な知見が市民の学びの場で求められている。

この事実は、毎年、江戸川大学が流山市から委託を受けて実施している「子育て支援員研修」講習講師などをしながら、私たち本学教員がひしひしと感じていることである。

そこで、こどもコミュニケーション研究所公開講座は、子どもの発達や保育・教育に関する最前線の研究者や実践者を講師として、研究・実践活動を紹介することにより、地域の子どもの保育・福祉・教育活動や子育て支援の充実・発展に資する対話を生み出すことを目的とする。

## 1. 2018年度公開講座について

【テーマ】子どもはみんなの宝～健全な食を通して育む～

【サブテーマ】「いただきます～はなちゃんのみそしる」映画を見て発酵学の大瀬由生子さんと語り合おう

【講師】大瀬由生子（発酵学・料理研究家）

【会場】流山市生涯学習センター4階研修室

【日時】2019年2月9日（土）9時半～11時半（映画終了後、懇談会）

【参加者】保育教育関係者、社会教育団体関係者、一般市民（幼児同伴5組含めて）27名

【募集方法】事前申し込みの先着順 参加費無料

【内容】「（劇場版）いただきます」映画上映会を企画した目的は、健全な食について、アレルギー対応も含めてともに考える機会をつくることである。

今回は、事前申し込みが定員を超えて、この領域への市民の関心の高さが伺われた。

映画は、絵本「はなちゃんのみそしる」の、はなちゃんが通った福岡県の高取保育園が舞台である。はだして駆け回り、竹馬で遊び、自分たちが飲むみそ汁のみそを毎月100キロつくる5歳児の元気な姿と、みそ汁、納豆、玄米、野菜の和食給食をおいしそうに完食する笑顔が印象的であった。

アレルギー園児の解決策を食の在り方そのものに探る保育姿勢に共感が広がり、映画終了後の懇談会では、発酵学の大瀬由生子さんを囲んで感想や質問を語り合い、温かくかつ具体的な悩みも打ち明けながらのコミュニケーションを



深めることができた。

参加者の年代内訳は以下の通りである。

30代……12名

40代……3名

50代……4名

60代……3名

20代6歳子ども同伴 1組

アンケートの自由記述を以下にまとめる。

- ・ずっと見たかった映画でした。とても感動しました。子どもも一緒にみることができてよかったです。普段から無農薬の野菜を食べて、添加物や加工品をとらない食事をしているのですが、なかなか同じような食事をしている人がいないのです。今回映画をみて、とても心強い気持ちになりました。
- ・メッセージの伝え方が上手で心に残りました。今日はタイミングの問題で一人できましたがぜひ家族みんなでみたいと思いました。  
30代男性
- ・4歳と2歳の女の子を育てている母親ですが、「いただきます」の映画には、まさに子育ての理想が詰まっていた。共働きのため、二人とも保育園に通っていますが、こんな保育園に通えたら幸せだなと思います。家でできることを少しずつ実践していきたいと思いました。家では毎日朝晩みそ汁を出すようにしていますが、ただ飲みなさい食べなさいというのではなく、野菜を切ったり味噌を溶いたりして一緒に作る体験を試みようと思いました。
- ・今日は素敵な映画をみることができて、改めて子育てを見直すきっかけになりました。
- ・自分の子どもがアレルギーをもっています。

親として子どもが持って生まれた不幸をどうしてあげたらと悩んでいました。この映画で子どもはもって生まれた生きる力があり、食べることでその力は引き出せると知ることができました。よかったです。 30代女性

- ・子どもが生まれてから、食に関してもいろいろ考えることが多くなり、今でも本などをたくさん読んできました。でも日々をすごしていくために、なあなあになってしまったりしていたので、改めて食育に関して考えさせられる有意義な時間になりました。 30代女性
- ・じぶんたちでおみそをつくることができて、一つしたのこどもたちにつくりかたをおしえることができるなんてびっくりしました!!

6さい男の子

- ・食育というと、親の仕事をわけてあげる、手伝わせるといったイメージでしたが、自分の仕事として担わせているところがなるほどなと思いました。食べたものによって、自分が作られていく、体の中から変わってゆくというメッセージがとても伝わってきて、本人だけでなく、周りの人にも影響を与えるんだと感じました。
- ・あちこちに幸せが満ちていて、子どもたちの笑顔に目頭があつくなりました。子ども食堂の活動をしているので、そこも周りにシェアしたいと感じます。 40代女性
- ・映像がとてもきれいだった。たくさん遊んでおなかがすいたらご飯を食べて、寝て、またあそぶ。その繰り返しが人間の根本で一番大事なことなのかなと感じた。
- ・一瞬一瞬を生きてる!!というエネルギーを感じた。食べることは生きること。そのごはんを作る人がいると気づくと、大きな愛情表現はなくても、見えない愛情を感じることもできた。  
早く帰ってごはんを一緒に食べたいと思う内容でした。 20代女性
- ・子どもの食べる様子がとても素敵でした。食の大切さがわかり、成功した映画でした。
- ・松戸市の子ども食堂ネットワークと関わらせていただいております。子育て支援のヒントを得たいと思いました。以前ある小学校で給食が

終わった後に子どもたちが「いただきました」と言っていました。「ごちそうさまでした」ではなく、「今でも印象にのこっています。「いただきました」には、生物に対する気持ちが感じられません。「いただきます」も素敵ですが、「ごちそうさま」もぜひ上映していただきたいと思います。

- ・自主上映を検討したいと思いました。キャリアアップ研修として、調理師、栄養士、保育士の方々に食の大切さを知ってもらえればよいです。 30代女性
- ・玄米おにぎりにみそ汁、納豆のお昼ごはんを、子どもと一緒にすぐ作りたくなりました。動き回り、遊んでペコペコのおなかになった子どもたち。だからこそ、ご飯ももりもり食べるという、目的が食べ残しゼロでなく、結果なのだとはッとさせられました。周りにいろいろな食べ物があふれ、大切なことがみえにくくなっています。子どもたちを育てる大人が、この映画のような本物の食を知り、大切な食を伝えていきたいと感じました。
- ・卒園生の高校生の男の子が西園長にむかって、「育ててくれてありがとうございます」と言っているシーンが印象に残りました。2歳の男の子を育てている母ですが、そんな言葉をかけてくれたらどんなにうれしいか……。西園長先生の思いがしっかりと伝わっているなあと感じたシーンでした。（涙があふれでました）食を通して人とのふれあい、心の成長、体の成長がしっかりと育まれてきたのだらうなあと感じました。先人の知恵に戻るとは文化が退化することではないというメッセージが心に残りました。ここにでている保育園全体の雰囲気古き良き昔の日本の風景がみられてなつかしさと胸がいっぱいになりました。今の子どもたちに日本のよい文化や伝統を少しでも伝えていけたらいいなあと感じました。

以上のような参加者の声から考えて、今回の公開講座は成功であった。架空の話ではなく、実際に、ふつうの保育園で行われていること、という現実感が、見る人に大きな共感を与えたのであろう。

## 2. 2019年度公開講座について

【テーマ】持続可能な社会をつくる保育を語ろう

【サブテーマ】共に育つということ

【講師】片山知子（幼児教育）

【会場】江戸川大学D棟351教室

【日時】2019年12月14日（土）10時半～12時半（講演終了後、懇談会）

【募集方法】事前申し込みの先着順 参加費無料

【目的】

今まで研究所が主催する公開講座では、子どもの発達や保育・教育に関する最前線の研究者（大学教員）を講師として、研究実践活動を紹介することにより、地域の子どもの保育・福祉・教育や子育て支援の充実・発展に資することを目的としてきた。

2019年度は、受講者の対象を明確にして、保育・幼児教育に携わっている現職の方々、子育て支援に関係する（したい）の方々、保育系学生・院生とすることにより、話し合いの焦点化を図りたいと考えた。

【内容】講師：片山知子氏のプロフィール

東洋英和女学院短期大学保育科卒業後、同付属かえで幼稚園7年勤務。在勤中、お茶の水女子大学研究生としての学びを経て、保育学会での発表「1977年日本保育学会第30回大会倉橋賞受賞」。その後、立教大学文学部教育学科教育学専攻に編入。在学中に第一子出産。保育ママにお世話になり学業と子育てを両立。卒業後は子育てと共に地域活動や、幼稚園、小学校でのPTA活動を経験。日本基督教団本牧めぐみ教会本牧めぐみ幼稚園に復帰。教諭、副園長として14年勤務の後、2010年より和泉短期大学児童福祉学科准教授2016年より教授。2014年より一般社団法人キリスト教保育連盟理事長就任（現在に至る）。

現在、2019年4月より社会福祉法人相模和泉福祉会 和泉保育園園長、和泉短期大学非常勤講師、相模原市子ども・子育て会議会長。

著書：『保育者論』（共著）『保育内容総論』（共著）『持続可能な社会をつくる日本の保育』（共著）。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本キリスト教教育学会、OMEP日本委員会、で活動中。



後援依頼先 流山市

参加者内訳は以下の通りであった。

- 10代……1名
- 20代……4名
- 30代……1名
- 40代……5名
- 50代……3名
- 60代……2名

今回の公開講座について知ったのは、という問いかけに対しては、流山市や大学のHPや広報、園長や知人からの紹介が多かった。やはり情報発信にはデジタルとアナログの双方が必要である。

アンケート自由記述欄に書かれた感想は以下である。

- ・身近な自然環境を生かしたり、地域の方とのかわわりをとおして次世代へ伝えていくことの大切さを改めて感じました。子育てにかかわる大人の楽しさやおもしろさを保育士達に伝えていきたい。
- ・子育て支援センターで勤務しています。子どもの感性がわかる大人でありたいと強く思いました。
- ・子どもを教育する一人の保育者として、今後の日本を考えることはとても大切だと思いました。私自身、もう一度、子どもと社会と向き合います。
- ・今回の講座では、知らなかったことが多く、いろいろな話をして学ぶことができました。
- ・具体的で、世界的な潮流のお話など、保育にかかわる、非常に有意義な時間を過ごしました。
- ・ESDに関する内容について、学びました。現代の環境が維持できるのか、また持続のため

にはどのようなことが必要か、と、考え、知ることができました。

- ・現場にいて、毎日追われている自分を反省する、ふり返る時間になりました。もっと広い視野で保育を考えていかないといけないことを実感しました。

なお、公開講座参加者の松浦愛美さん（和光大学大学院・元福岡こども園指導教諭）の参加記が後日届いたので、ここに掲載させていただく。

……………以下、記……………

講演題から、「持続可能な」という言葉に環境資源のイメージがありましたが、片山知子先生の講演を聞いて子どもたちをとりまく環境としての社会的・経済的な側面を総合的にとらえながら考える視点の必要性を改めて感じました。片山先生は、保育に関する国際的な潮流の内容にも触れながら、日本が大切にしてきた伝統文化や四季などを含めた自然環境、また地域の資源を保育カリキュラムに取り入れていくことの意義についてもお話してくださいました。

スライド写真では、日本最古の園舎・幼稚園の様子や東日本大震災で震災した園についても紹介があり、古くから日本で大切にされてきた保育のあり方や、震災で日常を奪われた子どもたちをはじめ地域の復興に向けての取り組みについて、映像を通して深く考える機会となりました。講演会の出席者は、保育を学ぶ学生や保育現場の職員や管理職、子育て支援サービス職員などで、質疑応答では保育者の働きやすい職場環境や社会情動的スキル・評価基準における今日的な課題、保護者対応についてさらに片山先生からお話を聞くことができました。充実した学び合いと交流の機会に感謝いたします。

……………以上……………

フォーラムよりも小規模の公開講座ならではの、濃密な話し合いができたことと総括評価する。参加者の満足度も高かったことから、テーマの設定についても、よかったと考えられる。

ただ、大学教室を使用しているため、公開講座中にチャイムが鳴ってしまったことについては、参加者から「切れないのか」という声があったので、今後の課題としたい。



しあわせは、食卓のなかにある。笑って、泣いて、ほっこり元気をもらう  
子育てエンターテインメント・ドキュメンタリー！

ナレーション：石田ゆり子 エンディングテーマ：坂本美雨 with CANTUS

プロデューサー：安武信吾 監督・撮影：オオタヴィン

主催：江戸川大学こどもコミュニケーション研究所 共催：江戸川大学駒木学習センター 後援：流山市、流山市社会福祉協議会

## 江戸川大学こどもコミュニケーション研究所公開講座

2月9日(土)9:30～上映会&懇談会 流山市生涯学習センター

参加費：無料 定員：50名(先着順) お子さま連れ歓迎！

お申込みは WEB フォームから <https://bit.ly/2IDWdUQ>

お申込みはこちら！





**よく食べ、よく遊ぶ、元気な子どもに育てたい。子育てのヒント満載のエンターテイメント。**

福岡県、高取保育園。そこには、まるでタイムトリップしたような、懐かしい日本の子育てがありました。裸足で駆け回り、竹馬で遊び、自分たちが飲むみそ汁のみそを毎月100キロつくる子どもたち。元気な子どもに育てるヒントにあふれています。

エネルギーの源は、医食同源に基づいた、みそ汁、納豆、玄米、旬の野菜を中心とした和食の給食です。

ドラマや映画化もされたベストセラー「はなちゃんのみそ汁」のはなちゃんが通いみそづくりと出会った高取保育園、ここに「はなちゃんのみそ汁」の原点があります。

高取保育園は、アレルギーという言葉がまだない1968年に開園。増え続けるアレルギー児の解決策を食のあり方に探り、アレルギーを改善していきます。アレルギー・アトピーのお子さんを持つお母さんは必見です。

神奈川県の変っこ畑保育園も、30年前から和食給食を導入。ふたつの保育園の育児からみえてくるのは、古きよき日本の食卓がつくる ことらしい たくましい命です。

発酵学の第一人者である小泉武夫東京農業大学名誉教授の知見や、予防医学者 奥田昌子の遺伝子研究の成果から、先人たちの食の英知を現代人のための健康思想として浮かび上がらせます。ナレーションの石田ゆり子のやわらかな声が、子どもたちの成長をあたたく包み、エンディングテーマの坂本美雨の歌声が、子守唄のようにやさしく響きます。

公開18ヶ月、口コミだけで全国45県にまで広がった、笑って、泣いて、ほっこり癒される、子育てエンターテイメント！全国の劇場で公開された「劇場版」が自主上映開始です。

(いただきます劇場版 75分)



毎月100キロのみそをつくる5歳園児



220名、和食、和食ゼロ！そのヒミツは？

**観客のみなさんの声**

- ★感動しました。これから母になります。子どもを産む前に観られてよかったです！ 20代女性
- ★子どもたちの姿に、心がほかほかして元気が出ました。40歳女性
- ★いのち、医食同源、超元気な子どもたちの表情がすべて語ってくれていると思いました。日本人の知恵が詰まっています♡ 53歳主婦
- ★あたたかく、かわいく、オシャレで、アートな映画！ 32歳女性
- ★映画がはじまってからずっと、しあわせな涙が止まりませんでした。子育てをやり直したい！ 49歳 主婦

- ★この映画で語られていることは、すごく当たり前のことで、すごく根源的なことで、すごく大切なこと。一青路
- ★小さな奇跡のリアリティ。うちの子供達も感心してた。うわあ美味しそうの連続。 U A
- ★普段、気づかない手や足のクローズアップに、子供を見つめる監督の深いまなざしを感じた。 弁当の日提唱者 竹下和男
- ★高取保育園の子どもたちは、日本一しあわせな子どもたちだと思います。小泉武夫
- ★子どもたちが可愛くて可愛くて、胸がキュンとなります。むしろ、おみそ汁が飲みたくなりますよ。 石田ゆり子



予告編は、YOUTUBE ホームページでご覧ください。「いただきます みそ」で検索。 itadakimasu-miso.jp

**『いただきます』 上映会&懇談会**

開催日：2月9日(土) 9時30分～11時30分  
会場：流山市生涯学習センター4階 研修室  
定員：50名(先着順) 参加費：無料

【お申込み】WEB フォームよりお申込みください。  
URL: <https://bit.ly/2lDwDUQ>  
【問合せ】江戸川大学駒木学習センター  
電話：04-7156-7715 (平日 9時～17時)  
メール：kodomoc@edogawa-u.ac.jp

江戸川大学子どもコミュニケーション研究所は、「子どもはみんなの宝～健全な食を通して」をテーマに、「(劇場版)いただきます」映画上映会を企画しました。絵本「はなちゃんのみそ汁」のはなちゃんが通った保育園の育児には、古きよき日本の食卓がつくる たくましい命への思いや、子育てヒント満載です。特にアレルギーやアトピーのお子さんをもちお母さんお父さん必見の映画です。映画鑑賞のあとには、発酵食の料理研究家 大瀬由生子さんを囲んで懇談会を行います。「食」を通して健全な身体と心を育てることの大切さについて共に理解を深めたいと考えます。

主催：江戸川大学こどもコミュニケーション研究所  
共催：江戸川大学メディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科、駒木学習センター  
後援：流山市

# 江戸川大学 こどもコミュニケーション研究所 公開講座

日時：12月14日(土)10時30分～12時30分

参加費：無料 / 定員：90名 ※申し込み制 先着順

テーマ：持続可能な社会をつくる保育を語ろう

～共に育つということ～

こどもコミュニケーション研究所では、こどもに関する公開講座を毎年開いています。今年は、片山知子氏をお招きしての勉強会を計画しました。

相模原市子ども・子育て会議会長としてご活躍中の片山知子先生のご専門は、“持続可能な社会をつくる保育”です。幼稚園、保育所、こども園、保育者養成の立場から、お話いただけます。地域に根差す保育実践の中で継承していく、創造する、ものやことに目を向けて、保育の本質について考えてみましょう。

気忙しい師走ですが、貴重なお話を聞かたないチャンス！みんなでリフレッシュしませんか？

## ♪片山知子先生のプロフィール♪



東洋英和女学院短期大学保育科卒業後、同付属かえで幼稚園7年勤務。在勤中、お茶の水女子大学研究生としての学びを経て、保育学会での発表「1977年日本保育学会第30回大会賞状受賞」。その後、立教大学文学部教育学科教育学専攻に編入。在学中に第一子出産。保育ママにお世話になり、学業と子育てを両立。卒業後は子育てと共に地域活動や、幼稚園、小学校でのPTA活動を経験。日本基督教団本牧めぐみ教会本牧めぐみ幼稚園に復帰。教諭、副園長として14年勤務の後、2010年より和泉短期大学児童福祉学科准教授、2016年より教授。

2014年より一般社団法人キリスト教保育連盟理事長就任(現在に至る)。

2019年4月より社会福祉法人相模和泉福祉会 和泉保育園園長、和泉短期大学非常勤講師、相模原市子ども・子育て会議会長。

著書：『保育者論』(共著)、『保育内容総論』(共著)、『持続可能な社会をつくる日本の保育』(共著)など。

対象：保育所、幼稚園の先生方、  
子育て支援に携わる方、  
保育について学びたい方や学生

会場：江戸川大学 D棟351室

※流山おおたかの森駅からの無料スクールバスをご利用ください。

※やむを得ない事情のある方は、申し込み時に駐車場利用ご相談ください。

お申し込み先：下記URLまたはQRコード

<http://bit.ly/2M6dk6B>



※12月13日(金)申し込み締め切り



お問い合わせ先 江戸川大学駒木学習センター 〒270-0198 流山市駒木474  
電話：04-7156-7715(平日9:00～17:00) / Eメール：kodomoc@edogawa-u.ac.jp